

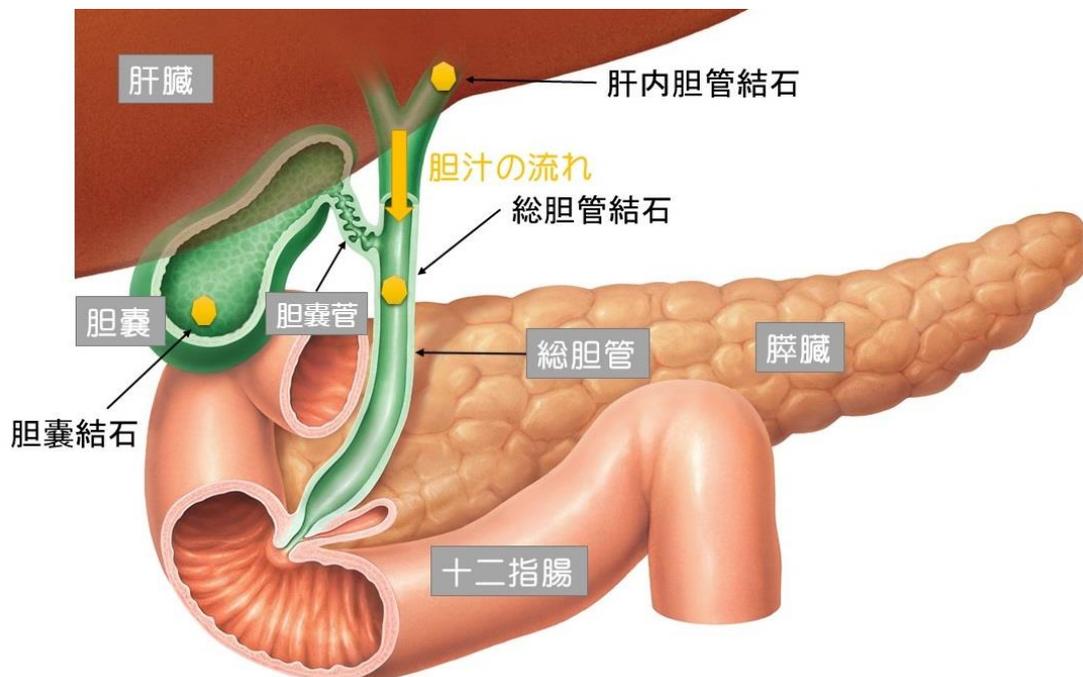


舞鶴医療センター便り

総胆管結石に対する内視鏡的治療について

●総胆管結石

胆嚢結石は胆汁中のコレステロールやビリルビンが結晶となり形成されます。胆汁は肝臓で産生され、胆嚢(たんのう)で濃縮されて総胆管を通り十二指腸へ流出されます。総胆管に石ができたものを**総胆管結石**といいますが、胆嚢内の石(胆嚢結石)が総胆管に出てくることもあります。



●症状

結石が胆管をふさぐことにより上腹部(みぞおちやみぞおちの右側)に痛みを生じますが、結石が胆管にはまり込んでいない場合は無症状のこともあります。特に高齢の患者さんでは、吐き気や食欲不振といった軽い症状しか自覚しないこともあります。

結石が胆管をふさぎ細菌感染を伴うと発熱、悪寒、褐色尿や皮膚や眼球結膜が黄色くなる黄疸(おうだん)といった症状が出現し、急性胆管炎の状態となります。胆管が閉塞すると細菌が血液中に広がり敗血症という状態になり、これは意識障害やショックを伴い致命的となることがあります。また、胆管の出口には膵臓の管(主膵管)も合流しているため、胆管の出口である十二指腸乳頭部に結石がはまり込むと急性膵炎を発症することもあります。急性胆管炎や急性膵炎を来すと緊急の入院や治療処置が必要となります。

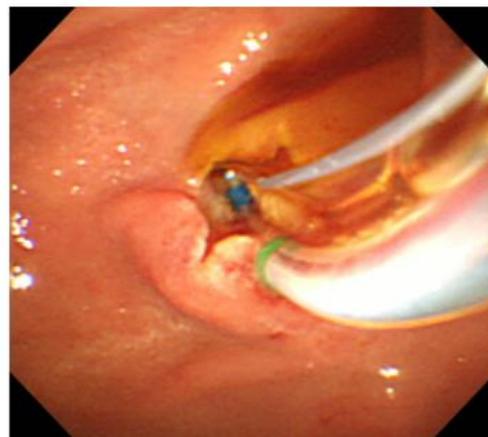
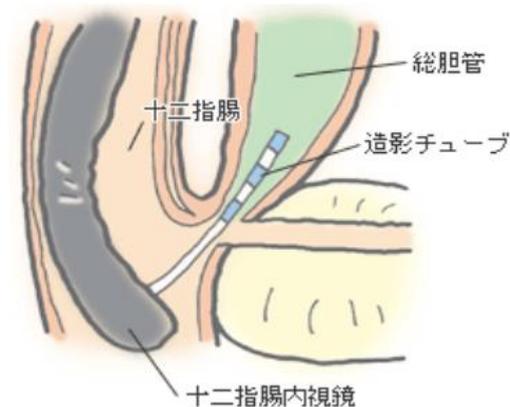
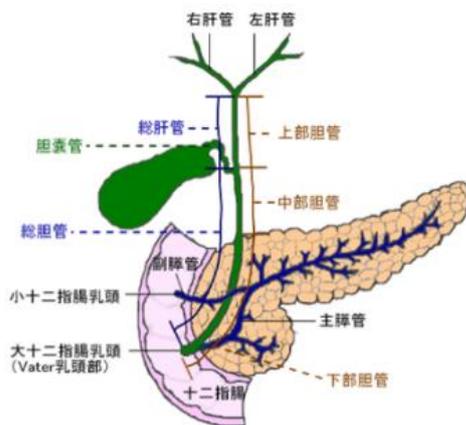
●検査および治療

○内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）

内視鏡を使って胆管・膵管を造影する検査を ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）といいます。口から十二指腸まで内視鏡（胃カメラ）を入れ、その先端から膵管・胆管の中にカテーテル（細い管）を挿入します。カテーテルから造影剤を入れて、膵管や胆管の X 線写真をとります。同時に膵液や胆汁を採取したり、病変部から組織や細胞を取って検査を行うこともあります。

○内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的結石除去術

EST とは十二指腸乳頭（総胆管の十二指腸への出口）を広くする目的で乳頭部を内視鏡を通して挿入した電気メスで切開する処置です。ERCP に引き続いて行われ、総胆管結石の治療やステントの挿入時に必要になります。総胆管結石があった場合は拡張した乳頭から総胆管内にバスケット状のワイヤーを入れて結石を十二指腸に引き出します。結石が大きい場合は特殊なバスケットカテーテルを胆管内に挿入して石を小さく砕くこともあります。



●当院では

当院では総胆管結石、胆管炎の症例が非常に多く、緊急の ERCP 施行も多数行っています。

(文責 消化器内科 太田 崇之)